

第4学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「漢字の広場1」 教材名「漢字の広場1」

2 単元の目標

第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（〔知識及び技能〕(1)エ）

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。（B(1)エ）

既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする学習の中で、言葉への関心をもち、自分の取り組みを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①第3学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（〔知識及び技能〕(1)エ）	①「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ）	①既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする学習に進んで取り組み、友達の反応や自分の記録を確認めながら、言葉の使い方や捉え方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

（1）単元について

既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする。この教材では、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録を残し、言葉をどう使ったか、どう捉えたかが分かるようにする。

（2）児童について

（学級の子どもの様子を先生が書く）

（3）指導について

誤りを「字形」「読み」「意味・用法」に分け、本人が確かめる箇所を選ぶ。点画を比べる、音読する、文を作るなど誤りに合う方法で再確認する。想定する難しさは、何度も書けば意味も使い方も分かると思う、全員に同じ練習を課す。評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えているかを、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。

5 指導と評価の計画（全2時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○誰に何を伝えるかを確かめ、書く材料や最初の文を出す。 教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。	学習状況を見て支援する。
第2次	2 （本時）	○教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。読み手が受け取った内容を確認、字形・読み・文中の意味を見直す。既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする。読み手が受け取った意味を確認、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。	思①（発言・活動中の記録・作成物）



6 本時の指導 (2/2)

(1) 本時の目標

間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えることができる。(B(1)工)

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	誰に何を伝えるかを確認め、書く材料や最初の文を出す。 ○「同じ場面について書いた文は、どこでまとまっていますか」 【めあて】既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする。 〈予想される児童の反応〉 ・漢字だけでなく文にすると使い方が分かる。	最初の言い方や記録を残し、授業後の考えと比べられるようにする。正答を先に示さず、扱う言葉と課題を確認する。
展開 (分)	○「同じ場面について書いた文は、どこでまとまっていますか」 教科書の当該教材で扱う絵や場面を手元で参照し、既習漢字を使って様子を文にする。読み手が受け取った内容を確認め、字形・読み・文中の意味を見直す。既習漢字を使い、学校生活の出来事をまとまりのある文章にする。 読み手が受け取った意味を確認め、自分の意図と違った箇所を選んで直す。残した表現にも理由をもつ。 〈予想される児童の反応〉 ・漢字だけでなく文にすると使い方が分かる。 ・同じ読みでも、この文に合う字を選びたい。	誤りを「字形」「読み」「意味・用法」に分け、本人が確かめる箇所を選ぶ。点画を比べる、音読する、文を作るなど誤りに合う方法で再確認する。 想定する難しさ：何度も書けば意味も使い方も分かると思う、全員に同じ練習を課す。 評価では、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えているかを、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録と活動中の発言・操作から確かめる。作品の量や見た目、発言の回数だけで判断しない。 ◎思① 間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認めたりして、文や文章を整えている。(発言・活動中の記録・作成物)
まとめ (分)	【まとめ】問いへの答えを、今日確かめた言葉や表現を含めて話す。 既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確認めた記録を見返し、初めと変わった点や、そのまま残した理由を確認める。 〈予想される児童の反応〉 ・同じ読みでも、この文に合う字を選びたい。	教師のまとめを写すだけにせず、本人が選んだ言葉と理由を確認める。態度は本時だけで決めず、単元を通した取り組みと調整の記録を合わせて判断する。 ◎態① (最初と最後の記録、見直しの理由)

(3) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで、右から左へ学習の流れを配置する。右端に題名とめあて、その左に問い「同じ場面について書いた文は、どこでまとまっていますか」。中央は、既習漢字を使った場面の文章と、字形・用法を確かめた記録に必要な言葉・材料と、考えた理由を対応させる。本文を扱う場合は先生が手元の教科書から必要な範囲を示す。左側に比べて気付いた点と見直した箇所、左端に本時で確かめたことを置く。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

